

全東京写真連盟
撮影会写真コンクール
入賞作品集



審査対象 上野不忍池浴衣モデル撮影会 (2)

撮影日 2023年07月30日

審査日 2023年09月02日

審査員: HARUKI 先生



金賞
「You belong with me」
門間 正之 様
モデル ゆいな

審査員：HARUKI先生 講評

艶っぽい女性とは彼女のような事を言い表すためにある言葉だったんだと今理解しました。夏の光線きらめく木漏れ日、白地の浴衣、風になびく後れ毛、虚ろげな流し目、濡れた唇、傘に触れる指、ここに“和の艶：Japanese Woman's Beauty”の要素が全て詰め込まれています。横位置で頭部と肩から下を思い切ってトリミングされた構図や遠近感を誇張しないレンズのチョイスが完璧と言えます。そしてもうひとつ、彼女の最高の表情☆



銀賞
「心躍る夏」
佐久間 裕史 様
モデル ゆいな

審査員：HARUKI先生 講評

楽しそう、本当に楽しんでいるかのようにストレートに好感を持てる明るい作品です。写真を見た後で確認したタイトルにも納得です！！ 中学生2年生の夏。陽が暮れたら立ち並ぶ夜店を友人と見物しながら買い食いしたり、もしかしたら隣のクラスの気になる女の子とバツタリ遭遇するかも知れないのを昼間からウキウキ楽しみにしていたあの夏の日を思い起こします（笑）。全体的に白っぽいシンプル画面構成にまとめられています。金賞作品と同じモデルさんのもうひとつの顔がここにあります。



銅賞
「夏の午後の脱力」
高橋 壯太 様
モデル 大橋 めりさ

審査員:HARUKI先生 講評

異常気象で真夏日が続いた今年の夏は本当に辛かったですね。そんな中での撮影会は参加カメラマンの皆さんもモデルさん達も汗だくで大変だったでしょう。紫陽花の花も季節は過ぎたとはいえ水分を失い乾燥しきってカラカラに干上がっているみたいです。その紫陽花たちを背面にしてひと休みするモデルさんまでもがブルーの浴衣とともに脱力感を身に纏っているかのようです。おそらく標準レンズかややワイドくらいのあまりパースの着かないレンズのチョイスと、浴衣の青さ日陰の光線状態がフラットな組合せが功を奏した作品です。



入選
「蟬しぐれ」
小倉 良二 様
モデル ゆいな



入選
「傘美人」
松岡 達雄 様
モデル 山下 明穂



入選
「夏の夢」
小野寺 基之 様
モデル 長谷部 彩



入選
「浴衣美人」
井原 亮祐 様
モデル ゆいな



入選
「小さき花」
村岡 雅之 様
モデル 彩乃 美希



佳作
「日盛」
湯原 章綱 様
モデル ゆいな



佳作
「ゆかた美人」
荒井 秀雄 様
モデル 山下 明穂



佳作
「夏の日」
寺島 弘行 様
モデル 鈴木 さくら



佳作
「不忍池の辺りで」
猿田 善和 様
モデル 長谷部 彩



佳作
「横顔」
池田 道政 様
モデル ゆいな



佳作
「まなざし」
金澤 義夫 様
モデル ゆいな



佳作
「会釈」
木村 正吾 様
モデル 瓦林 桜



佳作
「似合ってますか？」
武田 孝文 様
モデル ゆいな



佳作
「夏を連れてきた女（ひと）」
星野 祐一 様
モデル 山下 明穂



佳作
「しゃぼん玉」
三井 直人 様
モデル 山下 明穂



次点
「夏の日」
堤 博史 様
モデル 鈴木 さくら



次点
「扇の舞」
河村 徳助 様
モデル 大橋 めりさ



次点
「クールなまなざし」
栗原 恵一 様
モデル ゆいな



次点
「私のお願い」
斎藤 貴生 様
モデル ゆいな



次点
「笑顔」
鵜飼 典彦 様
モデル 山下 明穂



次点
「夏の装い」
内藤 勝之 様
モデル ゆいな



次点
「池畔にて」
片桐 研一 様
モデル ゆいな



次点
「街の花」
天谷 昌司 様
モデル 山下 明穂



次点
「意味深」
伊能 信一郎 様
モデル 大橋 めりさ



次点
「木陰見つけた」
岸野 孝博 様
モデル 山下 明穂

【 撮影ポジションを変えてみよう 】

全東京写真連盟の皆さん、ご無沙汰しております。

今年の夏の猛暑はこれまでになくひどい異常気象とも言える連日の酷暑でしたが、体調を崩したりされていないでしょうか。ボクはお盆の頃に夏風邪をやってしまい数日間寝込んでしまいました（涙）

今回の審査は2本とも浴衣撮影会でしたので、選者としては当日の状況などをアタマに思い浮かべながら審査&コメント執筆をさせていただきました。

前回のあとがきではレフ板の使い方や日中シンクロによるストロボ撮影などの“光の使い方”について書かせて頂きましたが、今回はその撮影時のポジションについて少しだけ触れてみたいと思います。

大勢での撮影会では前列のなるべくモデルさんに近いポジションから撮影したい方と後方から控え目に撮影したい方がいらっしやいます。どちらかと言えば前方へ集まりがちかと思うのですが、前列で立ち上がって撮影していると後の人たちの迷惑となりますので大抵は中腰やしゃがんでの撮影となりますが、それではどれも低い位置からモデルさんを見上げてしまうこととなります。例えば近くから空を背景に撮りたいとか、あるいは距離は離れた場所から望遠レンズで足を長く撮影したい等ロー・アングルから挑むことにちゃんとした狙いがある時は別として、基本的には女性写真の場合そうしたアングルはあまり良いとは思えません。であれば、後方へまわってスタンディング・ポジションからモデルさんと同じ目線から撮影した方が自然です。また逆に望遠系ばかりじゃなくワイドレンズや標準域レンズでの自然目線での画角で撮りたい場合などには前に出なければなりません。そんな時には後方の方々へ声を掛けてササッと数秒だけ撮らせてもらうとかの気遣いは必要な常識です。前方後方だけでなくセンターや左右も同じくですね。

つまり、どちらが良いとか悪いとかではなくて目的に沿った場所選びをすること、またその反対になりますが「自分はこの場所からしか撮らない」ではなく、同じモデルさんでもいろいろな撮影ポジションやアングルを変えてみると意外な発見があることも☆

HARUKI